

Mount Fuji Research Institute
Yamanashi Prefectural Government

October.2014

トピックス 公開講座「市民講演会」

環境情報センター便り

研究紹介

- 世界文化遺産「富士山」の価値を引き出していくために
池口 仁（環境共生研究部）

マツボックリ通信 地域環境観察「富士山五合目植物観察会」

News Letter

opics

トピックス

公開講座「市民講演会」

本研究所では、この8月にフランス人災害リスク研究者のマリー・オジャンドレ准教授（リヨン第二大学、フランス）を外来客員研究員として迎え、富士山の火山防災と富士山に関わるステークホルダーの役割について共同研究を行いました。

そのマリーさんの研究成果の発表の場として、8月27日（水）18時より防災新館のやまなしプラザオープンスクエアを会場として『山梨テロワールを語るタベ〜フランス人研究者と語る富士山の魅力と火山防災〜』と題した市民講演会を開催しました。こ

の講演会では、まず、藤井所長が『火山としての富士山』と題した基調講演を行い、その後、マリーさんが『スリーピングビューティー（眠れる森の美女）と生きる一富士山の恵みと災い〜』と題した講演を行いました。講演では、日本における他の火山地域（例：磐梯山）やフランスの火山地域（例：シェーン・デ・ピュイ）との比較をとおして、富士山における火山防災についての提案がありました。

堀内企画県民部長をはじめ、多くの県庁関係者、また、普段は遠方のため富士山研ま

でなかなか来所できない方など総勢80名近い参加者がありました。講演会の後のフリーディスカッションでは、時間が押していたため多くの質疑討論を行うことができませんでしたが、アンケートに寄せられた参加者からの意見を見ても、県民の方々の火山防災についての関心の高さが伺えました。

講演の最後にマリーさんから『火山は眠っている』という内容の話がありました。眠っているときにこそ、その防災と減災を考えていきたいと改めて考えさせられる機会であったように思います。



環境情報センター便り

..... 映像資料人気ランキング ~環境情報センター貸出統計より~

環境情報センター映像資料人気ランキング

1	富士山麓野鳥たちの詩	DVD
2	恐竜大進撃	DVD
3	モリゾーとキッコロ vol.1	ビデオ
4	モリゾーとキッコロ vol.4	DVD
5	モリゾーとキッコロ vol.3	DVD
6	樹海	DVD
6	恐竜VSほ乳類 第2回	DVD
7	あつまれ!たたかう甲虫たち	DVD
7	フューチャー・イズ・ワイルド	ビデオ
7	ジオ・ワールド10 恐竜大図鑑	ビデオ
8	フューチャー・イズ・ワイルド	ビデオ
8	モリゾーとキッコロ vol.2	ビデオ
8	不都合な真実	DVD
9	フューチャー・イズ・ワイルド	ビデオ
9	富士山	DVD
10	クワガタの逆襲	DVD
10	恐竜VSほ乳類 第1回	DVD
10	アース	DVD

環境情報センターは自然科学や環境に関する図書のほか、映像資料も収集しています。現在の所蔵数は、ビデオ584点、DVD174点です。館内で視聴できるほか、県内の利用者には貸出を行っています。今回は、所蔵している映像資料の中から人気作を紹介します。

第1位に輝いたのは、「富士山麓野鳥たちの詩」です。これは、富士山の麓で見られる野鳥を映像で紹介しているDVDです。子どもから大人まで楽しみながら学習できるため、貸出はもちろん、館内視聴や環境教室での上映などでも人気があります。続く第2位は「恐竜大進撃」です。恐竜を扱ったDVDは男性に人気があり、これ

は特に男の子の利用が多い作品です。第3位には「モリゾーとキッコロ」のアニメーション作品がランクインしました。2005年の「愛・地球博」の公式キャラクターが登場するこのシリーズは、4位、5位、そして8位にもランクインしており、子ども達からの人気の高さがうかがえます。

こうしてランキングをみると、富士山、恐竜、昆虫を扱った作品が多いことが分かります。また、「フューチャー・イズ・ワイルド」、「不都合な真実」、「アース」など世間で話題になった作品も人気が高いようです。もし気になる作品がありましたら、ぜひ環境情報センターをご利用ください。

世界文化遺産「富士山」の価値を引き出していくために

池口 仁（環境共生研究部）

富士山の「顕著な普遍的価値」が認められ、世界文化遺産に登録されたい1年になります。認められた価値の一つは、現在に至るまで山岳信仰のよりどころになり、人々の崇敬を主軸にする文化伝統の証拠として富士山の美しい姿が貴重であることです。もう一つは、富士山のイメージが芸術にイン

スピレーションを与え、世界に衝撃的に伝わり芸術の発展をうながした証拠であることです。日本が世界遺産に登録したということは、「この富士山の二つの価値を、世代をこえて守っていく」と世界に向けて約束したということになります。

なぜ富士山が注目されたのか

信仰と芸術が富士山に関係して成立するまでには段階がいくつもあります。まず、目への刺激である「視覚」をはじめ個人の感覚により富士山が「よいもの」として体験されなくてはなりません。次に刺激への反応として言葉をつむぐ、絵を描く、写真を撮る、などの活動をし、作品として反応の証拠が残されなければなりません。さらに「反応の証拠」が、他の人々に評価され共有されなくてはなりません。さらに、「富士山に高い価値がある」とは、刺激と反応と評価が社会的に非常に広く共有されて、文化の域に高められ、より深い体験が求められる、というプロセスが常に働いてきたということです。

図に富士山の周囲の都市を示しましたが、富士山が見える範囲には多くの人が定住し、日常生活の中で富士山の姿を目にしています。円の外の福島県の阿武隈山地の山からも富士山が見えます¹⁾。「体験の基盤」と「体験を共有する社会」の両方がそろって、富士山の価値がより深いものになっています。

では、富士山の体験というのは時代を超えて安定して存在したのでしょうか？

東京都武蔵野市にある成蹊学園

の気象観測所は長期の一貫したデータを得られる気象台の一つですが、独自の観測として気象台から富士山が見えた日数を記録しています。1965年には年に27日まで低下していた富士山の見える日が、2000年ごろには100日以上に回復しています²⁾。おそらく大気汚染によって東京周辺は一時的に富士山が見えにくい場所だった時期があり、その後、富士山を見る機会が大幅に回復したことがわかります。葛飾北斎は江戸、今の東京の生活や仕事の間から見える富士山をたくさん描いていますが、北斎のような視点がありえないほど「空気の透明さ」が失われた時代もあったのです。

環境の変化は、富士山の見え方を変え、見え方が変われば、富士山から私たちが引き出せる文化的な価値の質も、あるいは次世代に引き継げる文化の質も変わることになります。

富士山の体験・富士山の見え方

この文章の最初に富士山の世界文化遺産としての価値として認められた信仰・崇敬に関わる価値と、芸術に関わる価値について書きましたが、信仰・崇敬に関わる人の活動と、芸術に関わる人の活動で富士山の体験の仕方、富士山の見方は同じでしょ

うか？

富士山の五合目より上で活動している人は、富士山を意識の中心において、富士山そのものを体験することを目的に活動しています。一方で、富士山の山頂から離れた富士五湖や富士吉田の市街地になると、必ずしも富士山に意識を集中しているのではなく、釣りをしたりボートをこいだり、遊園地で遊んだりしている後ろに富士山が見えています。富士山への信仰・崇敬の気持ちを実現する宗教的な手続きとして富士講が発達していますが、その中心にあるのは山頂周辺で得られる富士山そのものの体験です。一方の芸術では、北斎が描いた富士山は人の暮らしの向こう側に描かれ、太宰治が書き留めた富士山は三つ峠中腹の月見草の向こうに見た富士山です。1990年代の多くの絵画や写真も人の居住する地域の中から「人の営みとともに描かれた作品」がほとんどです³⁾。信仰の源泉としての富士山は山頂への求心性が、芸術の源泉としての富士山は人の生活の中での富士山の存在感が、多く記録されるようです。富士山の形はもちろん両者で共通なのですが、富士山を体験し、眺める視点の位置は大きく違います。

写真は山中湖の音楽イベントに集まった観衆の様子です。観衆の視線の先には演奏者のいるステージが、

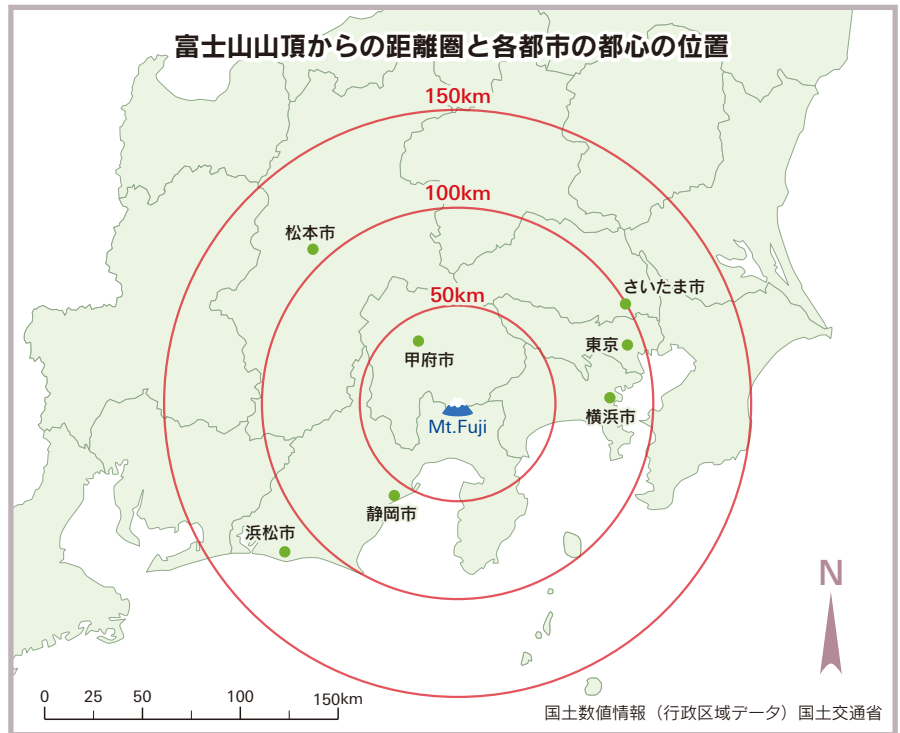
その向こうに富士山の山頂が見えています。富士山の周りでは、新しい富士山の体験が新たに生まれています。写真の背後にある草原に覆われた山、パノラマ台では天文データを元に、富士山の山頂に三日月がかかる瞬間を待っているカメラマンたちがいます。違う行動をして違う体験をする離れたところにいる人々が、同じ富士山を見ていることが富士山の価値の幅を広げています。

観光で富士山の周辺を訪れる人は多いのですが、富士山周辺が、適切な「おもみ」の富士山を体験できる場であることは、富士山の信仰・崇敬と芸術的な価値を受け取り広く共有する基盤でもあります。

これまで研究所では、風景を検討する基盤的な技術の開発、形や色彩などの風景の刺激が人に与える影響の基礎的な研究、地域住民による風景の評価の研究、土地利用と風景の保全策の立案と計画手段の開発など

をすすめて、地域の自治体が都市計画や景観計画を策定する時に活用してきました。これからも、富士山の顕著な価値が人々の文化の中に取り込まれ、その普遍的な価値を次世代

に継承していく力になっていくように、
どの場所でも人がどのように活動し、ど
んな富士山を見ているのかを研究し、
富士山の保全に役立てていきたいと
考えています。

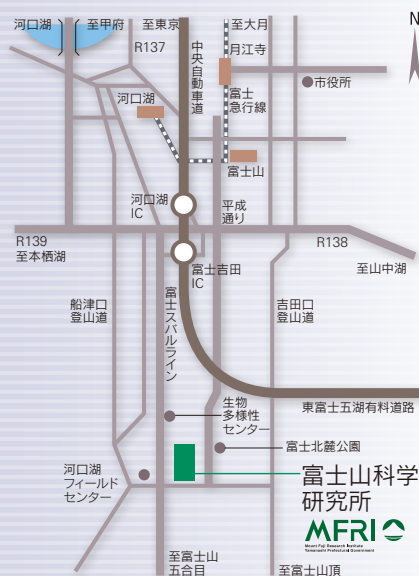


山中湖の交流施設「きらら」での音楽イベント

- 1) 千葉茂樹 (2012):「富士山, 可視北端の福島県からの姿」地球科学66 (5) 157-159
- 2) 成蹊気象観測所: 視程観測2001年版 (宮下敦・内田信夫・倉茂好匡・湯本晋一 (1994) 成蹊気象観測所における視程観測について, 天気, 41, 711-716を改変) <http://www.seikei.ac.jp/obs/pwork/fuji_j.htm>
- 3) 成瀬不二雄・永田生慈・宝木範義・灰野昭郎 (2000): 日本之美 富士: 美術年鑑社, 428pp



access map



- **アクセス**
- 富士急行線河口湖駅より
富士急行バス富士山五合目行き(季節運転)
● 中央自動車道河口湖ICより5Km

■ **開館時間** 午前9時～午後5時

■ **休館日** 年末年始、館内点検日
環境教育事業…
[12月～3月]月曜日(祝日を除く)
図書の貸出等業務…
[12月～3月]月曜日(祝日を除く)

山梨県富士山科学研究所

〒403-0005山梨県富士吉田市上吉田字剣丸尾5597-1

- **代表** 0555-72-6211
- **教育** 0555-72-6203(環境教育プログラム受付)
- **情報** 0555-72-6202(図書貸出等)
- **広報・交流** 0555-72-6206
(出張講義・富士山相談総窓口)
- **FAX** 0555-72-6204
0555-72-6183(環境教育プログラム等申し込み)

URL <http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/>
E-mail www-admin@mfri.pref.yamanashi.jp

※ニュースレターのバックナンバーは
ホームページでご覧になれます

発行・平成26年9月

マツボックリ通信

地域環境観察

「富士山五合目植物観察会」

富士山が世界遺産に登録され1年が経過し、ますますその環境保全のあり方が注目されています。この観察会は、五合目付近の植物観察をとおして富士山の環境保全意識を高めることを目的として開催し、今年で11回目となりました。今年は、7月26日(土)と30日(水)の2回に分け65名の参加者とともに富士山五合目御中道の植物観察を行いました。

当日は、まず本研究所で中野隆志(主幹研究員)より富士山の厳しい環境のことや富士山の植物の特徴についてガイダンスがありました。それから、バスの中では富士山の成り立ちに関係し、独立峰であり標高が著しく高いこと、歴史の浅い火山であることなどから本州中部の他の山々との植生に違いがあること、について説明がありました。

奥庭駐車場到着後、参加者は3つのグループに

分かれ、丸田恵美子教授(教授東邦大学理学部)、中野隆志、安田泰輔(本研究所研究員)3名の講師について説明を受けながら観察を行いました。シラビソ、コメツガ、カラマツ、ダケカンバ、ミヤマハシノキ、ハクサンシャクナゲ、イタドリ、オンタデ、ベニバナイチヤクソウ、フジハタザオなど多くの植物について解説していただきました。参加者は、話に引き込まれ熱心に聞き入ると共に、メモをとったり見たものを写真に収めたりしていました。真冬の風雪に耐えるために地面を這うように生きているカラマツや少ない水分や栄養分を得るために地下5mもの根があるオンタデの解説にはその生命力の強さに感嘆の声を上げていました。両日とも好天に恵まれ富士の頂上を仰ぎ見ながら自然に親しむ1日となりました。



参加者からの声

- 厳しい自然環境の中であげばっている植物等に感動した。麓で見ていた富士山がますます素晴らしく見えた。
- 植物が育っていくための環境、条件などについて、とても分かりやすく説明してもらい、意味を知った上で道を歩くと、たくさんの発見、楽しみ方を身につけられてよかった。
- 今まで、ただ、「きれい」とか「すごい」とかの感想しかなかったが、植物の生態系等分かりやすく教えてもらい、生命の不思議さに思いをはせながら植物を見ることができるようになった気がする。

イベント情報

地域環境観察

自然環境と人との関わりを新たな視点から捉える観察会です。

◆富士北麓自然観察会

● 10月18日(土) 9:00～11:30

※県内の小学生以上(中学生以下は保護者も申し込む)

※申込みは1ヶ月前から

企画展示★

「自然と人との共生」をテーマに、様々な生物の世界や火山としての富士山を写真やパネルで紹介します。

- ◆きのこ写真展 9/6(土)～11/9(日)
- ◆剣丸尾の自然写真展 11/29(土)～1/12(月)
- ◆富士山・火山写真展 1/15(木)～2/24(火)
- ◆ある日の風景写真展 2/28(土)～3/22(日)

もりのおはなしかい～絵本の読み聞かせ～

絵本の読み聞かせや森の観察などをとおして自然と触れ合いながら興味や関心を伸ばします。おはなしかいの前にはおりがみ教室も開催しています。

■ **実施日**…毎月1回(日曜日実施)

10/26・11/16・12/7・1/18・2/8・3/8

■ **時 間**…午前10:30～、午後2:00～ 各約40分

■ **対 象**…幼児～小学校低学年 ※プレゼント有り

国際シンポジウム

～安全で快適な富士登山を目指して(仮題)～

高所(登山など)への身体適応能力を概説し、安全で快適な富士登山への情報発信を目的として開催します。主な講演者は、Dr. Andrew Subudhi(コロラド大学)、及びインターバル速歩の考案者である能勢博・信州大学大学院医学系研究科スポーツ医科学講座教授(当研究所特別客員研究員)です。

■ **開催日時**… 11月15日(土)

10時00分～午後4時30分(予定)

■ **開催場所**… 山梨県富士山科学研究所
1階 ホール

- 各イベント・事業は、見学地入場料等を除き無料です。
 - イベントの日時内容などは予告なく変更することがあります。
 - 休館日以外は、毎日無料開催。
- ただし、★印がついたイベント・事業は休館日及び12月から3月までの月曜日(祝日は除く)には実施しておりません。

スタッフボイス mini staff voice mini

富士山科学研究所のまわりはかなり涼しくなってきました。夏の間は、フランス人研究者マリーさんを講師にした市民講演会や、研究所の公開も行った富士山研まつりといったイベントを行ってきました。多くの県民のみなさまにおいでいただきましたが、これらを通し

て富士山研での研究や教育活動に親しんでいただけたならば、うれしいかぎりです。イベントの際、みなさまからいただいたご意見は、これからの活動に活かしていきたいと思っております。(Y.H)